

小鹿野町活性化～一泊二日滞在の実現～車中泊の普及・実施策

小鹿野町全域 小鹿野地区 立教大学

1 活動目的

小鹿野町を来訪する人々の滞在時間を延長し、一泊二日での小鹿野町滞在を実現することにより、小鹿野町の地域経済の活性化を実現すること。

2 活動地域の現状

1) 小鹿野町の現状・紹介

小鹿野町は埼玉県の北西部に位置し、秩父盆地の西側に市街地を形成する人口、10,025人（男性4,991人、女性5,034人）、世帯数は、4,475世帯（令和7年2月1日現在）、総面積171,26㎢の町である。

小鹿野町には鉄道路線がないため、主要な公共交通機関は、鉄道のある秩父市からの町営及び民間のバスである。もともと、公共交通機関などの交通網が発達しなかった結果、開発も進まなかったため小鹿野には、日本百名山の「両神山」、日本の滝百選の「丸神の滝」、平成の名水百選の「毘沙門水」、日本の地質百選の「ようばけ」などの豊かな自然が残っている地域であることが特徴である。

2) 秩父地域の1市4町などで組織する秩父地域おもてなし観光公社の推計によると、2017年の秩父地域の入込観光客数982万5千人をピークに、その後下降傾向にあるが、2020年のコロナ禍の664万8千人を経た後、現在は回復傾向にある（2023年856万1千人）。

この中で小鹿野町への入込客は、2019年のデータでは約45万人と言われている。この数字は秩父地域全体の約5%であることから、小鹿野町への来訪者を増やす方法を考えることは、秩父地域を訪れる観光客の興味関心をどのように小鹿野町にも向けさせるかという問題と表裏の関係にあるといえる。

3 活動内容

1) このような状況の小鹿野地域において令和5（2023）年度より、埼玉県中山間「ふるさと支援隊」に参加し、小鹿野町への来訪者の増加を目指して活動してきた。

今年度の目標は、以下の3つである。第一は、車で訪れる観光客（車中泊利用者、キャンプ場利用者等）向けに小鹿野町で一泊二日滞在できるスポットを探し、訪問目的となる観光スポットを探すこと。第二は、車中泊、オートキャンプの実施可能場所を探し、広報すること。第三は、農業従事者、地域の商店、地域住民等と共同し、車中泊、キャンプ利用者への食材、お土産などを探し、企画することである。

2) 上記目標を達成するために、今年度は以下の活動を行った。

第一の目標を実現するために小鹿野町を訪問し、車中泊をはじめ、車で訪れる人々向けの観光スポット、体験交流スペースを探し出すこと。車で訪れる観光客の行動範囲を小鹿野町に限定せず、秩父郡（1市4町）にまで広げ、複数の観光スポットを探すこと。

第二の目標を実現するために小鹿野町を自動車で訪問し、車中泊及びオートキャンプ、

コテージ宿泊の実証実験を行うこと。

第三の目標を実現するために小鹿野町の農家など第一次産業の生産者、地域住民の方がと協力し、来訪者にパッケージとして販売できる素材を探すこと（今年度は「おっきりこみ」のパッケージ商品化を検討する）。

4 成果

第一目標については、本年度は地域を小鹿野地域に限定することなく、秩父圏域の1市4町（秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町）にまで範囲を広げた結果、大学生が週末に車で訪れる観光客向けに56個の観光スポットを選出することができ、2月に3つのテーマ（アクティビティコース、自然を満喫するコース、開運コース）でモニターツアーを実施することができた。

第二の目標については、昨年度は、3か所で車中泊、オートキャンプを実施できる場所を選定し、実際に車中泊を実施したが、今年度は大学の正課活動において車の利用が制限されていたため、活動地域を小鹿野町に限定せず、1市4町に拡大したことに伴い、大学生でも安価に宿泊できる施設（旅館、ゲストハウスなど）を見つけることができた。

第三の目標については、車中泊利用者向けにキャンプ飯をパッケージ化することを目標に、昨年度の活動で小鹿野の郷土料理のひとつとして見出だした「おっきりこみ」をキャンプ等でも簡単に作れるようにパッケージ化することを試みたが、一年を通して、食材を入手できないこと、商品化のための費用が思いのほか掛かることが分かり、断念するに至った。もっとも、埼玉県からの紹介により、小鹿野町のゆず農家の方々との交流を深めることができ、ゆず農家の方々が抱える問題を把握することができた。具体的には、ゆずは多く生育しているが、急こう配傾斜地に生育するなど立地の問題、人手不足、農業従事者の高齢化の問題から、すべてを消費しきれておらず、小鹿野町の食資源として十分に活用されていないことが明らかになった。また農家の抱える課題（余剰作物、販売先の新規開拓問題など）を解決するために、ゆずを活用した新しいレシピ開発の提案を地域の飲食店に対して行うことができた。

上記3つを遂行するうえで最も重要なことが小鹿野地域の人々との信頼関係を構築することである。これまで2022年以降、3年間に亘る小鹿野地域での活動を通して、本年度も地域の方々から、様々な方々を紹介して頂くとともに、本活動への理解を広め、発表の場（みんなの学校、夏祭りなど）を頂くなど強い信頼関係を構築することができたことが大きな成果といえよう。今後も小鹿野地域での各種ボランティア活動に積極的に参加し、主体的に行動することにより、さらに強固な信頼関係を構築し、より多くの人々に貢献できるような活動を続けていきたいと考えている。

5 課題

このような成果を上げることもできてはいるが、一方で課題も多く残っている。ここでは3つを挙げておこう。

第一の課題は、小鹿野地域が交通難所であることから、これまでのバス中心の活動では、効率性の限界を迎えている点である。本企画は車を利用する来訪者向けに考えて進めているが、車を持っている学生が少なくレンタカーを利用せざる終えない場面が増えている。また大学の規程により、レンタカーの利用は教員と大学院生に限るとされてい

ることから、実際に車を利用したプランの検証をどのように行うかが、今後の検討課題といえる。

第二の課題は、昨年度、小鹿野地域のみを対象に来訪者を増やすことは困難であることが判明したことに伴い、今年度は小鹿野町単独での観光コースを作るのではなく、1市4町の特徴を最大限に生かしたコースを作ること、あるいは1市4町に共通する観光資源を繋ぎ合わせるにより、地域連携を促すことを検討してきた。その結果、今年度は、3つの回遊コースを作ることができ、検証をおこなうことができた。ただ、コースを設定しても広報をどのように行うかが次の問題である。この問題を解決するために、西武電鉄にプレゼンテーションを行う機会を得ることができた。今後は、実際に行ったモニターツアーの結果を踏まえて、再度、西武鉄道、秩父鉄道の協力を得て広報などの協力を得ることができればと考えている。

第三の課題は、ゆずの活用方法である。ゆずという優れた食資源がありながら、その採取方法、採取したゆずの活用方法などの課題をどのように解決するかという問題が残っている。解決方法としては、ゆずそのものを商品とする方法、ゆずをジャム、ゆず胡椒、ゆずポン酢などに加工、あるいは加工する方法を示して販売する方法など多岐にわたって考えられるが、小鹿野地域の住民の方々の意見や助言をもらいながら、試作を重ねるとともに消費者にとって気軽に美味しく作れるようなレシピなどを開発できるかが次年度の課題といえる。

6 次年度以降の計画

次年度の計画としては、上記のごとく3つの課題について、解決策を講じることと、秩父圏域の1市4町（秩父市、横瀬町、皆野町、長瀨町、小鹿野町）が連携する定住自立圏構想を活用して、今年度見つけ出した観光資源を有機的に結合できる周遊プランと新たな価値を生み出す仕組みを考えていきたいと思う。

以上

